

八十二銀行本店

所有者 株式会社 八十二銀行
設計者 三菱地所株式会社一級建築士事務所
施工者 清水建設株式会社
維持管理者 株式会社 八十二銀行 総務部
所在地 長野県長野市岡田178-8
竣工 1969年9月30日



簡素で飾りがなく、それでいて格調が高い銀行である。長野市街の目抜の中でこの銀行の存在感が光り、長野市中心街の印象を良くしている。設計当初の理念であるまちづくりに寄与するという景観形成の目的を果たしている建築である。この建築は、建築を守ってきた八十二銀行の人々の心の表現と思える。平滑な面をもつ立方体といった表情はややもすれば単調に流れやすいが、ここでは決して単調になっていない。その理由はこの平滑さを保つための優れたディテールが存在しているからである。例えば、タイル施工上の配慮が充分になされ、改良裏足とか、バタリング工法、エフロレソセンス防止策など隅々にまで配慮されたディテールである。また、エルミンサッシュ採用による開口部の透明性、遮光性の確保、回転式によるクリーニングの簡便化、中間期の自然換気、サッシュ廻りのステンレス枠とその水切りの完璧なディテールなど外壁とサッシュの守るべき基本をすべて満たしていることが平滑な美しさを保っている秘密である。単純さを生み出すための設計力の高さがここに感じられる。一方、平面計画を見れば、1200モジュールが用いられ、集中コア方式が採用されている。これにより、多様な機能変化に対応できるフレキシブルなプランとなっている。単純な中にも合理性に対する姿勢が読みとれる。また、内装材料の選択の基準にも、理念が生かされていることも見逃せない。八十二銀行の理念が設計の隅々までに浸透していることは見事という他ない。

本店建築、かくあるべしという好サンプルであると思う。

機能変化に対する改造増設計画にもしっかりと理念が継承されている。例えば、バンキングルームの機能変化にも適切な対応ができ、事務センターや別館などあとから建てられた建築群も美しいアンサンプルをつくり出している。

設備面についてはエルミン回転サッシュを採用することで寒冷地の負荷を軽減し、省エネ設計となっている。

また、設備機器は大規模な改修を行わずに今の負荷増に対処できている。運用管理についてもシナリオをつくり、行員に徹底させている点など模範となるべき点が多い。

以上のように企画、設計、施工、管理、運営などが明らかな理念により統一され、利用者一人一人に徹底されていることが、この銀行を優れたロングライフ建築としている。